

ようこそいらっしゃいませ 三十九観音の御利益と観音浄土庭園



洞窟観音 徳明園 山徳記念館



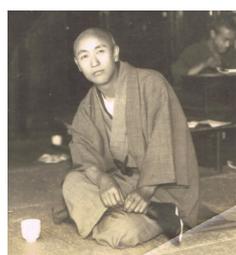
【洞窟観音】新潟県柏崎市出身、高崎市田町の呉服商として財を成した山田徳蔵翁が、人々が共に楽しめる観光参拝場を建設しようと決意。大正8年頃着工、翁が私財を投じての50年間、動力や土木機械を使わず、つるはしやスコップ等全て人力で山を抜き、石を運び、この地中観音参拝場を完成させました。洞窟内は通年18℃程度に自然に保たれ、昨今の夏の猛暑の中にも、納涼を兼ねてご参拝頂けます。洞窟内の黒色の溶岩は浅間山から信越線まで運び下され、装飾として人の手により張り付けられ、又、無数に配置された巨石は群馬県鬼石の三波石や新潟県魚沼の小平尾石、佐渡の赤石です。戦時中には高崎市民四千人を収容できる「模範的民間防空壕」としての価値が陸軍に認められ、セメントや鋼材等の物資が軍から配給され建設が続けられました。洞窟内には今もその為の貯水池や発電室を見ることができ、近年資料的価値も見直されております。



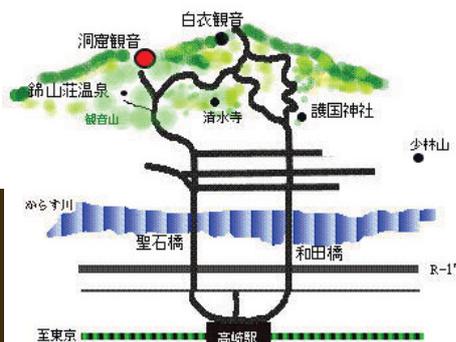
楽山作 馬頭観音

【高橋楽山】洞窟観音の観音像他、石彫物はすべて新潟魚沼出身の「楽山」が生涯をかけて残した芸術的価値の高い作品群です。ある程度洞窟が掘り進んだ頃に、徳蔵が若い楽山をこちら高崎に招聘し、当園のすべての石彫作品の制作を依頼、洞窟入口付近の作品は楽山初期の作品で、奥に進むに従い楽山の技術が向上し、観音像の表情は豊かになり、柔らかな曲線美は素材が石とは思えぬまさに絹の如く繊細な細工を見ることができます。

【徳明園】洞窟観音と同時に造成された、北関東屈指と云われる約6000坪の日本庭園です。造園は明治神宮庭園に関わった新潟市の二代目後藤石水、作庭は日本建築の大家と云われる金子清吉によります。池の畔の滝見観音を中心とした「観音浄土庭園」であり、池泉回遊、枯山水、苔庭と石庭の4つのエリアでは、初春の躑躅や山桜、水芭蕉と輝かしい新緑、初夏の紫陽花と秋の紅葉は特に名高く、四季折々の表情をお楽しみ頂けます。園内各所には楽山作品が散りばめられ、彼の代表作である浦島太郎像、笑い閻魔と笑い鬼像といった商人徳蔵ならではの遊び心とアイデアが盛り込まれた特徴のある庭園となっています。夏の深緑ライトアップ、秋の紅葉ライトアップの荘厳な眺めは必見です。



【山徳記念館】「地中に洞窟観音、地上に徳明園、空に高崎号」
80年の生涯を駆け抜けた創設者山田徳蔵の資料館です。親交の特に深かった近代漫画家「北沢楽天」をはじめ、当時の軍や皇室、政治家との関わりの様子や、山徳呉服店経営当時の様子、高崎航空普及活動の資料等々、20代にして洞窟観音自費建設を決意するに至る興味深い資料を展示しております。



◆一般財団法人 洞窟観音山徳公園◆

住所：群馬県高崎市石原町2857
電話 027-323-3766 FAX 027-322-5025
ホームページ <https://yamatokuen.com>



